

すずきじろうの「あずま街道」

No2 旧名取郡岩沼北部・名取南部編

前回は岩沼の金蛇水神社まで紹介しましたが、今回は、引続き岩沼北部と名取南部地区のあずま街道を歩いてみたいと思います。

貴船神社から北上するあずま街道の往時のルートは、まだ現在までは確定されていないようです。

地元の古老によると貴船神社から丘を登り尾根を通るルートと沢に降りて通るルートがあったという話が伝わっているとの話を聞きましたので紹介いたします。このルート沿いには、柳沢妙力不動尊堂や沢の薬師堂があります。

それでは、この街道沿いの見どころを紹介しましょう。

山のあずま街道



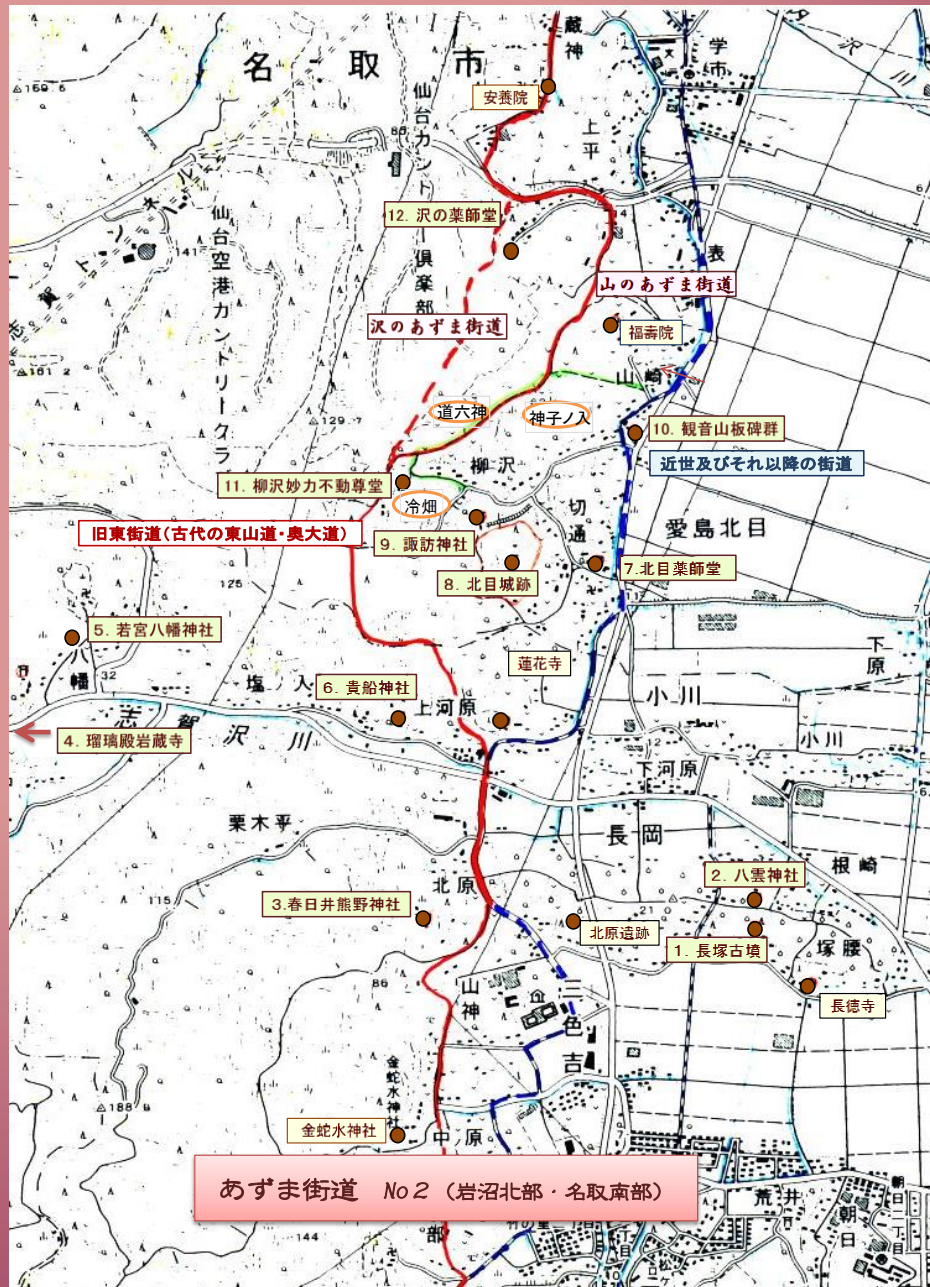
1. 長塚古墳 岩沼市長岡字台

長塚古墳は昭和26年に國學院大學によって発掘調査が行われ、墳丘全体に黄褐色粘土を用いて構築されていることが確認されている。形状は有段円墳であり、古墳の規模は直径37m、高さは4.2m。また、近くには古墳時代前期の集落跡北原遺跡がある。



2. 八雲神社 長岡字上根崎22

朱雀天皇承平年中(931-937 平安)地主邑八郎太夫曩祖屋州津島の神を勧請して牛頭天主社と称す。八郎太夫の耕田に六月田とよぶものがあつたがこれぞ古昔の祭田であつたと伝えられる。



3.春日井熊野神社 岩沼市長岡北原山28

鳥羽天皇の御代、許されて名取老女が、紀州熊野本山から分霊を勧請する際、ここ三色吉で京三条の鍛冶宗近に金注連を打って貰っている間、この神の分霊を仮に祀ったと云われる小さな社であると推察される。

また、本山からここまで道案内のお供をしてきた多数の鳥を帰したのでこの地を古跡鳥帰「カラスガエリ」「カスゲリ」の里として現在の「春日入屋敷」として残っている。



4. 瑠璃殿 岩蔵寺 岩沼市志賀字薬師9番

岩蔵寺の創建は貞観2年(860)に慈覚大師が薬師如来像を現在の滋賀県よりこの場所にもって開基したと伝えられてさまざまな伝説を持つ寺です。境内の前には現在も山門ではなく鳥居があるなど神仏混合の形態が今も留め、石段も苔むし当時の雰囲気を感じる事が出来ます。建物内部には本尊の薬師如来を中心として両脇に日光菩薩、月光菩薩が安置され、運慶が彫り込んだとされる木造十二神将、狩野法眼(鎌倉時代)が描いたとされる絵馬などが納められています。(岩沼市HP)



5. 若宮八幡神社 岩沼市志賀字八幡7

天喜年中(1053~1057年 平安)陸奥守源頼義が岩沼の郷に着陣の際 源家の太祖八幡大神を祈ると西方に神気が山上に立つのを見たのでこの所に白旗一流を納め 若宮八幡大神を勧請したと伝えられる。明治5年村社に列せられる。

この八幡宮が鎮座する県道8号線(岩沼・蔵王線)は、あずま街道の脇街道として、出羽・山形へ抜ける重要街道であった。この街道筋に、岩蔵寺、大師温泉がある。



6. 貴船神社 岩沼市小川字上河原28

全国260ヶ所にある貴船神社の一つだが創祀年月は明かでない。今、当社氏子布田氏の伝える家系によって按ずるに、文治五年(1189)葛西民部丞光信(布田忠三郎氏祖、葛西清重の一族か)藤原泰衡討伐の折り源頼朝に従って奮戦し遂に民部丞主従は名取郡に止まり山城の貴船大神の分霊を祀り、小川村の鎮守とした。岩石磊々たる参道を登る拝者奇異の景観にうたれ、かつ全山鬱蒼たる老杉につつまれ実に荘厳無比の神域で、風光亦明媚にして山麓を流れる川もあたかも京都の貴布祢川の景に似ている。

7. 北目薬師堂 名取市愛島北目切通地内

薬師堂は、一般の地図では「薬師神社」となっている。参道では狛犬が迎えてくれる。薬師如来(医薬の仏)を本尊としている。堂内は薬師如来を安置している。まさに神仏一体、神仏習合が今に残る。「近世それ以降のあずま街道」沿いに立つ。板碑は、薬師堂の向かって右側に立つ。宮城県では極めて珍しい板碑で、碑の上部に三角の額を作り額部に二条線を刻む。身部を内に彫り込み、額部と根部が出張った形。身部は、上方に阿弥陀の種子「キリーク」を薬研彫し、下方に造立趣旨と紀年銘を刻む。このような板碑は武蔵型(関東型)板碑といわれる。



8.北目城跡 名取市愛島北目字石沢

城主、栗野大膳亮助兼と伝える。仙台市長町にも北目氏(城主、栗野氏)が住み、その名も同じで非常にまぎらわしい。しかし、当地の史家、佐々木氏によれば、本城の栗野氏は全く別系の者の由。寿永年間(1182~1183)鎌倉幕府の地頭職として入来した栗野大膳亮助兼がこの地に城を築き創始となり、建久二年頃(1191頃)、その子主馬允助元が「北目」と家号を称した。天正年間、二十四代修理少進元時の代、伊達家に降りその子多聞(左聞)兵衛助清は天正十三年(1585)武隅館(鶴ヶ崎城)に移されたが、慶長五年(1600)、政宗に滅ぼされた。



9. 諏訪神社 名取市愛島北目字石沢34

主祭神 建御名方神。鎮座の年代を詳にしないが、往古此地、鹿猪の為常に農作物を害されることを憂い邑民相会し丹誠を諏訪の神に致す。其験著しく最早其の被害がなくなったことを感謝し、信濃国諏訪の神を勧請奉斎したといわれる。或は又、源頼義/義家父子、安倍一族を征せんとした時大神を深く崇敬し遂に勝利を得たのは殊の外当社を尊信したとも伝えられる。(宮城県神社庁HP)

元亀の変(1570)の恩賞に亙理元宗・重宗父子が、名取郡の内笠島村と小川村を伊達藩主・輝宗より拝領し、配下の者を移住させて現地を管理させました。この時、亙理の小山鹿島神社神主・高橋氏の一族を、北目部落の諏訪神社神主として移住させました。端正なたたずまいを見せる諏訪神社は、信仰を集めて心の拠りどころとなってきました。(名取市 なとり100選)より

10. 観音山板碑群 愛島北目字竹之内地内

ここの板碑は、名取市内にある数百基ある板碑の中で最も大きな岩石で作られている。板碑とは、板状の石に仏を表す梵字や紀年銘・造立趣旨などを刻んだ中世仏教で使われた供養塔の一種である。「近世それ以降のあずま街道」沿いに立つ。



11. 柳沢妙力不動尊堂 名取市愛島北目字柳沢13

あずま街道(古山道)へ向かう途中、閑静な個所にある。沢伝いに清水が流れる。不動明王(不動尊)は大日如来の仮の姿であり火焰を背にして、憤怒の姿をしている。難を除き、魔を降伏し、すべての人にわけ隔てなくご利益を授ける。また、誓願を立て清水をかけることから水かけ誓願不動といわれ、付近に一般に水源がある。街道を通る人々が、ここで休息したのであろう。

12. 沢の薬師堂 名取市愛島笠島西国見63-1

大久保沢は今では国見と呼んでいるが、「沢の薬師様」のある処で沢の向かいの山には市の坪の「峰の薬師様」が祀られている。大久保沢に熊野山新宮寺の末寺で真言宗善福寺跡があり薬師堂の別当寺となっていた。

後年、善福寺が火災で焼失し、松浦茂雄氏方が「沢の薬師堂」を管理している。薬師堂境内には、五基の古碑がある。

